

#### 4. ベトナム社会主義共和国／Socialist Republic of Vietnam

ベトナム国保健省アドバイザー（個別専門家派遣）

Advisor to Ministry of Health (Health and Medical Cooperation Planning)

Period of Project (Expert Service) : 06 July 2004～05 July 2007  
Title : Health and Medical Cooperation  
Project site : Ministry of Health  
Implementing Agency : Ministry of Health  
Supporting Agency : International Medical Center of Japan

##### Project Summary

Since the assignment to Vietnam, the advisor to MOH had made effort to establish reliable relationship with relevant medical institutions along with collecting latest information on health sector and creating the bases of various activities. Up to the end of JFY 2004 the following activities had been conducted in collaboration with MOH.

- 1) Various information in health sector was collected and JICA strategy for assistance was drafted. Pieces of advice for ODA projects (JICA and JBIC) in implementation, planning and formulation were made so that they can be implemented smoothly.
- 2) The 4<sup>th</sup> and 5<sup>th</sup> MOH, JICA and 3 core hospital meetings were held, contributing to strengthening collaboration among these institutions, particularly in improving training system. Role sharing in MOH departments in these activities was also defined.
- 3) The Steering Committee for Improvement of Training System was set up in MOH and put into action in order to improve training quality including introduction of rotation system for newly graduated doctors, setting up standard curriculums & textbooks, etc. along with enhancing training from upper level to lower level.
- 4) Meetings with donor agencies were frequently held, mainly focusing on donors which were relevant to Japanese assistant program and avian influenza control. These meetings contributed to providing useful information on efficient implementation of Japanese health sector projects.
- 5) The advisor to MOH was involved in planning and implementation of nosocomial infection control as well as infectious diseases control such as avian influenza and SARS. In December 2004, a training course to train hospital staff for avian influenza was held in collaboration with MOH and Bach Mai Hospital.
- 6) MOH as well as JICA recognizes the importance of total care in upgrading the quality of medical care. Measures to improve and disseminate total care have been discussed expecting to apply to the future assistance.

## ベトナム社会主義共和国／保健省アドバイザー

派遣期間： 2004（平成16）年7月6日～2007（平成19）年7月5日  
指導科目： 保健医療協力計画  
プロジェクトサイト： ベトナム国保健省  
相手国実施機関： ベトナム国保健省  
日本側協力機関： 国立国際医療センター

### 活動サマリー

小原 博（個別派遣専門家）

#### 1. 背景

ベトナム社会主義共和国（以下ベトナム）における医療分野の協力は1960～70年代にチョーライ病院など南部を中心に実施されていたが、その後中断した状態が続いていた。しかし、1986（昭和61）年における市場経済導入と全方位外交を骨子とする新政策（ドイモイ政策）実施に伴い、我が国との協力関係も新たな段階に入った。医療分野では1990年代半ばより、ハノイ市内の医療施設整備、拠点病院整備と機能向上、感染症対策、母子保健などの面で協力が行なわれ成果を挙げてきた。今後これらを有機的に統合し、ベトナム全域に成果を波及させ、多くの人民に医療の恩恵を及ぼすことが強く求められている。

上記構想を効率よく実施するには、保健省にアドバイザーを派遣し、保健医療政策の面から管理及び支援を実施することが適当と考えられる。また、各ドナーと協調することにより、一層効果的な援助を実施することが重要である。併せて保健医療政策に関する助言を与えることにより、ベトナム全土を対象とした医療向上に寄与することが期待できる。これらを実行することを主な内容として保健省アドバイザーが派遣されることになった。

#### 2. プロジェクト目標と活動計画のサマリー

日本の援助の成果を効果的に裨益させ、ベトナムの保健医療向上に寄与することを主な目標として、活動を実施している。主要カウンターパート部署は保健省国際局、治療局、研修局である。国レベルにおける研修の質改善、感染症対策等に関しても助言を行っている。活動の概略は以下の通りである。

- (1)日本の保健医療ODAの効果的・効率的な実施のために必要な助言、調整
- (2)3拠点病院間の連携促進と「保健省—JICA—3拠点病院会議」開催
- (3)他ドナーとの協調促進
- (4)国レベルにおける研修の質改善
- (5)感染症対策、院内感染対策に関する助言

### 3. 平成17年度の活動概要

(1)日本の保健医療ODAの効果的・効率的な実施のために必要な助言、調整

①バックマイ病院プロジェクト終了後のフォローと新プロジェクトの準備：

Tuyen Quang省に対する技術指導最終評価ワークショップ（17年4月7～8日）及び報告会（4月19日）に保健省スタッフとともに参加した。バックマイ病院が5年間同省病院を重点指導してきた結果、病院機能は著しく改善し、保健省から良好な評価が与えられた。

国際協力機構（以下JICA）スタッフとともに新プロジェクト実施計画案を作成した。バックマイ病院プロジェクトで得られた成果と質の高い研修を通して効率よくベトナム全土に波及させることが新プロジェクト構想の骨子である。事前評価調査期間中（10月23日～11月2日）調査に協力した。18年3月29日、R/D署名が行われ、5月に新プロジェクト開始予定である。

②ホアビン省プロジェクト：

プロジェクト長期専門家と適宜会合を開き、プロジェクトの運営、問題点等に関し話し合いを行っている。Baseline surveyに関する計画、研修実施における諸費用の支払い基準、バックマイ病院がホアビン省病院に対し実施する研修計画、短期専門家の業務などが主な内容である。保健省も同プロジェクト運営に関し積極的に支援を行っている。

プロジェクト開始当初困難が多かったが、問題点は徐々に改善され、最近プロジェクト運営は軌道に乗ってきた。特に、ヘルスシステム及び看護管理の短期専門家の指導を通して大きな進歩が見られた。

③ベトナム中部地域プロジェクト：

R/D協議（17年6月14日）、キックオフセミナー（9月27日）、看護管理短期専門家報告会に出席した。保健省スタッフとともにフエ病院プロジェクトを訪問し、運営について話合った（4月19～20日）。定期会議の在り方やプロジェクトオフィスのスペースと場所に関する問題が出されたが、保健省の助言により定期会議が具体化され、オフィスについても積極的に検討することで合意した。

④チョーライ病院現地国内研修フェーズ2：

保健省スタッフとともにチョーライ病院を訪問し、プロジェクト進捗状況の確認と研修センター設置に関する助言を行った（17年11月）。現地国内研修は活発に行われているが、比較的高度な臨床技術に偏っている傾向がある。病院管理や看護管理も重視するよう助言を与えた。省から郡への指導は徐々に行われているが、さらに促進する必要がある。短期専門家派遣に際し（18年2月）、病院側と準備を進めた。

⑤ゲアン省リプロダクティブヘルスプロジェクト：

17年7月14日に最終セミナーが行われ、7月末にプロジェクトは終了した。新フェーズとして、ゲアン省母子保健センターによる近隣省の母子保健要員に対する訓練を主としたプロジェクトが構想に上がっている。

⑥新興感染症対策プロジェクト：

ベトナムでは近年SARS、鳥インフルエンザ等新興感染症が相次いで発生しており、その対策は緊急課題となっている。保健省は国立衛生疫学研究所（NIHE）にP3施設を設置し、そこを拠点に新興感染症対策に関するサーベイランス、研究等を実施する構想を進めている。それを支援する目的で日本からプロジェクト形成調査団が派遣され（17年 6 月）、さらに事前評価調査団（12月）、無償基金協力プロジェクト基本設計調査団（2006年 1 月）が派遣された。基礎情報を収集するとともに、これら諸調査に協力した。18年 3 月24日にR/D署名が行われ、6 月に開始予定である。

⑦JBICプロジェクト：

ベトナム政府は円借款により、省病院に対する機材整備及びそれらに関連した技術力強化計画を進めている。JBICは 3 病院（Thai Nguyen、Ha Tinh、Lang Son省病院）をパイロット病院として選定し協力することを決定し、さらに援助機材及び研修計画案を作成した。調査実施時に対象病院選定、機材内容、研修計画等に関する助言を行なった。

JBICプロジェクトは拠点病院から下位レベルへの裨益、ホアビン省プロジェクトにより構築されるモデルの他省への展開などの観点から、JICAプロジェクトと密接な関連性を有していると認識される。上記 3 病院に対する協力の経過を観ながら他省にも広げることとを考慮する方針である。

(2) 3 拠点病院間の連携促進と「保健省—JICA— 3 拠点病院間会議」＊開催：

（＊ 3 拠点病院とはバックマイ病院、フエ中央病院、チョーライ病院を指す。以下、会議名を 3 拠点病院会議と略す）

①第 4 回 3 拠点病院会議（17年 7 月20日、バックマイ病院）

地方病院指導と卒後研修を主眼とした継続研修に焦点を合わせ、具体的成果を得るための施策を明確にし、実行に移すことを企図して実施された。

協議の結果、以下の合意に至った：ア.カリキュラム、教材、研修修了証書の標準化を図る。イ.DOHA活動における 3 病院の協調を促進する。ウ. 3 病院間で技術の交流に努める。エ.新卒医師の臨床研修システムを改善する。さらに、これらを実行に移すため保健省内に治療局主導によるワーキンググループを設置することが合意された。本会議において小原は講演「Some ideas and recommendations for improvement of Continuous Medical Education」を行った。



第 4 回 3 拠点病院会議における講演（小原）

②第5回会議（18年2月15日、保健省）：

過去4回の会議により得られた研修の質改善に関する合意事項を基盤に、新卒医師の研修システム改善に焦点を当て実施された。ローテーションシステム導入、標準カリキュラム、標準テキスト、修了証書の標準化等につき議論し、具体案や実施に向けた保健省各部署の役割が示された。小原は「日本における新卒医師の研修」について講演を行った。

(3)他ドナーとの協調促進

①ヘルスセクターパートナーグループ会議：

ベトナムに対するドナー間の最も重要な会議であり、WHOの主導下に1～2ヶ月に一度程度実施されている。保健省次期5カ年計画、鳥インフルエンザ対策、結核対策、HIV/AIDS対策、医療保険、食品衛生、貧困対策、SWAP、ドナー間の情報交換などが主なテーマである。9月12日の会議では保健省より2010年までに国民皆保険を実現することを骨子とした医療保険改善計画案が提示された。

②鳥インフルエンザ対策に関する会議：

鳥インフルエンザ対策には各国の協調を必要としている。17年9月以降、保健省、農業省、UNDP、CIDA、WB、FAOなどが主催するドナー会議が頻回に開催されている。

③その他：

最近、省病院に対する援助を行うドナーが増加しており、KfW、SIDA、WHO、KOICAなどと省病院情報交換や病院協力の在り方に関する討議を行なっている。保健省主導で、看護教育改善、公衆衛生大学の活動、枯葉剤被害者救済などに関する会議も行われた。

(4)国レベルにおける研修の質改善

①17年6月20日、保健省研修局、バックマイ病院、JICA共催で研修管理セミナーを開催した。ベトナムにおける研修システムを改善するに当たり、バックマイ病院の役割を明確にすることが主な目的である。同病院からローテーションシステム導入など卒後研修改善案が提示された。小原は講演“Expectation for BMH in training medical staff”を行った。

②第4回3拠点病院会議では、保健省、3拠点病院、JICAは協力して卒後システム改善に取り組むことで合意した。その結果を受け、保健大臣の命により研修システム改善のためのSteering Committeeが発足した（10月11日）。この委員会は副大臣を筆頭とし、局長級、保健省アドバイザー、3拠点病院長等12名のメンバーから構成されている。

③その後、保健省治療局と研修システ



第1回研修システム改善のためのSteering Committee 17年10月18日、保健省

ム改善に関する会議を頻回に行い改善計画案を作成した。計画案は地方病院に対する研修システム改善と新卒医療従事者（まず医師から開始する）の研修システム改善から成る。前者については、保健省の支援下に3拠点病院におけるJICAプロジェクトで改善を目指す。とくにバックマイ病院における新プロジェクトを重視しており、改善のモデルとすることにした。後者については保健省治療局が直接主導して改善に取り組むことになった。

- ④保健省は、3拠点病院すべてに研修を統括管理する組織として「研修センター」を設置すること、及び新卒医師の卒後研修システム改善に取り組むことを表明し、現地調査（3拠点病院及び省病院）を実施した。さらに第5回3拠点病院会議の結果を受けて、新卒医師研修におけるローテーションシステム導入、カリキュラム改善、テキスト標準化等に取り組み始めた。保健省スタッフとともにこれらの活動を行っている。

(5)感染症対策、院内感染対策に関する助言

①SARS及び院内感染対策：

保健省治療局及びバックマイ病院院内感染対策部とともに、各病院における院内感染対策能力向上に努力している。小原は病院を対象とした院内感染対策の実情調査及び管理要員に対する研修を実施した（一部厚生労働省国際医療協力研究委託費を使用した）。

②鳥インフルエンザ対策：

ベトナムでは2003年末に初めて鳥インフルエンザが発生し、その後これまでに3波の流行があり、社会生活、人々の健康、農業に大きな影響を与えている。平成17年末までの累積患者数は93例、死亡数42例に達する。

保健省で実行している主な対策は以下のとおり：ア.対策委員会設置、イ.民衆の疾患に関する認識向上、ウ.サーベイランス体制強化、エ.早期発見、オ.適切な初動体制構築、カ.医療スタッフの能力向上、キ.検査・治療・感染対策機材の整備、ク.治療薬（タミフル、抗生物質）備蓄、ケ.最新情報の公開、コ.農業農村開発省など他セクターとの協調、サ.国際協力の推進、シ.予防、疫学に関する研究体制構築、ス.各ステージに沿った行動計画作成

これらに関し適宜助言等を行っている。17年12月12日より4週間バックマイ病院で開催された研修会では企画・実施に協力した。11月中旬以降、新患発生はなく、12月中旬以降は鳥の間でもアウトブレイクはないが、保健省は引き続き警戒態勢を継続している。



4. 平成17年度の成果

主な成果を以下のようにまとめるこ

地方病院スタッフを対象とした鳥インフルエンザ対策研修会、バックマイ病院

とができる。

- (1)17年度に実施中のODAプロジェクトとしてチョーライ病院現地国内研修フェーズ2、ベトナム中部地域プロジェクト、ホアビン省プロジェクトがある。さらに近日中に開始予定のプロジェクトとして、バックマイ病院新プロジェクト、新興感染症対策プロジェクト、麻疹対策プロジェクト、JBICプロジェクトがある。これらのプロジェクトの実施、形成、企画、プロジェクト間の協力促進（特にホアビン省プロジェクトとバックマイ病院）に寄与した。
- (2)3拠点病院会議をととして保健省—JICA—3拠点病院間の協調関係が強化された。5者が協力して研修システム改善に取り組み始めたことを特記したい。
- (3)保健省内に研修システム改善のためのSteering Committeeが設置され、研修の質向上に向けて本格的取り組みを開始した。従来この種の委員会に外国人がメンバーになることは認められなかったが、初めての例としてメンバーになった。
- (4)他ドナーとの情報交換をととして、ODAプロジェクトや鳥インフルエンザ対策の円滑な遂行に寄与した。
- (5)院内感染対策及び感染症対策への参画、医療従事者に対する研修会実施支援などにより、これらの能力向上に寄与した。

## 5.2 年間のまとめ

アドバイザーがベトナム保健省に派遣されるのは初めての例であり、着任後、医療事情の把握、主要医療機関訪問と実情把握、医療セクターに対する援助基本方針作成、他ドナーとの関係構築、オフィスの整備など活動基盤の整備から開始した。保健省スタッフとの信頼関係構築や定期会議開催にも努力した。1993（平成5）年以来、ベトナムにおける諸調査やバックマイ病院プロジェクトに関与してきた経歴もあり、比較的スムーズに実務に入れたように思われる。

これまでベトナムに対する医療分野における日本の協力は拠点病院（バックマイ病院、チョーライ病院等）に主なターゲットが向けられてきた。それにより、これら拠点病院の機能は向上し、本来有すべき機能を発揮しつつある。拠点病院による省病院に対する指導（DOHA活動）も軌道に乗りつつある。今後、これまでに得られた成果をさらに効果的に末端に至るまで裨益させることはベトナムに対する援助の基本方針であり、この考えに基づき諸活動を実施してきた。3.(1)の項に記載したプロジェクトの多くはこの構想に沿って実施されており、形成、企画に参画するとともに、プロジェクト開始後は保健省スタッフとともに支援を実行してきた。

中央レベルから地方へ医療の恩恵を裨益させるために以下の施策を重視している。a) 現地リソースによる地方医療機関の指導、b) 他ドナーとの協調、c) 3拠点病院間協調促進。中央が地方を指導する手段として研修が極めて重要であり、現在実施中の各プロジェクトでは研修の質改善を主要課題としている。さらに保健省の立場から全国的レベルにお

ける研修の質改善に取り組んでおり、軌道に乗りつつある。3拠点病院会議は過去第5回開催され、その結果、保健省—JICA—3拠点病院間の協調関係が構築され、目的が明確化しつつある（5者の協力による研修の質改善とベトナムの医療への貢献に主眼が向けられている）。

最近省病院レベルに援助を行うドナーが増加しており、保健省アドバイザーの立場より、情報の共有と協調促進に努力している。3拠点病院は省病院を指導する使命を担っており、この観点からも役割が増大しつつある。ホアビン省プロジェクトが良いモデルになることを期待してプロジェクトを実施を支援している。

さらに近年、SARS、鳥インフルエンザなど新興感染症が毎年流行しており、その対策は緊急課題となっている。幸い現在は良好にコントロールされており、これには保健省スタッフの努力が大きいが、臨床面で最も貢献したバックマイ病院の基盤構築にJICAプロジェクトが貢献したことも特記したい。また、保健省アドバイザー自身、ベトナム北部の院内感染対策能力向上のために企画、調査、研修実施などにおいて積極的に関与してきた。最近ベトナムでは院内感染対策の認識及び能力が向上しつつある。

## 6. 今後の展望

今後、以下の活動に重点を置きたいと考えている。

### (1) 病院を軸とした地域医療プロジェクトに対する支援

日本のODAによるベトナム援助の中で病院を対象としたプロジェクトは大きな割合を占めてきた。今後これらを有機的にプログラムとして捉え管理することが大切である。また、病院機能を地域のヘルスシステムの面から捉え、地域に最大限の裨益をもたらすよう施策を展開する必要がある。さらに、病院間の連携（特に3拠点病院間）や関連する業務を実行しているドナーとの協力も裨益効果を得るために不可欠である。これらの視点をもとに保健省の立場より実施中および実施予定のプロジェクトを支援する。

### (2) 研修システム及び質改善

質の高い医療従事者を育成するために、また、医療の恩恵を末端まで波及させるために、研修は極めて重要な役割を果たす。最近保健省は研修の重要性を認識し、改善を目的とした“Steering Committee”を発足させた。この活動を支援しながら研修システムと質改善を図る。具体的には、新卒医師に対するローテーションシステム導入、テキスト標準化、標準カリキュラム作成、地方病院に対する研修の質改善、研修修了証書の標準化などである。

### (3) 感染症対策、院内感染対策

新興感染症に対するサーベイランスシステムや迅速な対応策の構築、院内感染対策能力の向上と普及は早急に必要とされており、保健省は積極的な取り組みを開始している。そのほか、HIV/AIDSや結核など感染症対策に関する課題は多数存在している。これらに関し助言等支援を行いたい。一方、ベトナムはSARS、マラリア、鳥インフルエンザなどに

関し有効な対策を実施した貴重な経験を有している。この経験を周辺諸国や日本とシェアすることは多くの利益をもたらすと思量される。

#### (4)保健医療協力の将来の方向性と新プロジェクト発掘に関する助言

次期JICAプロジェクトはこれまでの協力によって得られた成果を一層効果的に波及させるとともに、医療の質を向上させる観点から実行することが望ましい。新プロジェクトの候補の一つとして、看護師育成機関を対象とした看護教育に関するプロジェクトがある。日本による病院を対象としたプロジェクトはトータルケアを重要視しており、保健省もその能力向上と普及を重要課題としている。看護教育の段階から看護の質向上を目指すことはトータルケアの普及及び医療の質向上のために意義が大きいと思量される。

#### 7.その他

ベトナムの医療は戦争により大きなダメージを受け、1990年代までヘルスシステムが空洞化した状態が続いていた。しかし、社会経済開発10カ年戦略と保健医療セクター10カ年戦略に基づき、着実な進歩を遂げており、その過程で日本の援助が少なからず貢献してきたと考えられる。現在、これまでの戦後復興型の保健医療行政から質を重視する段階に入っているといえる。しかし、貧困者に対する医療、医療サービスの地域格差是正、レファラルシステム改善、新興感染症対策、非感染性疾患や交通事故の増加などが重要な課題として浮上してきている。保健省アドバイザー業務もこれらの問題解決に寄与することを重視しながら実行していきたいと願っている。